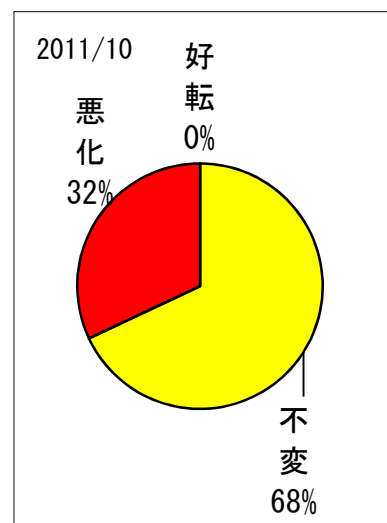
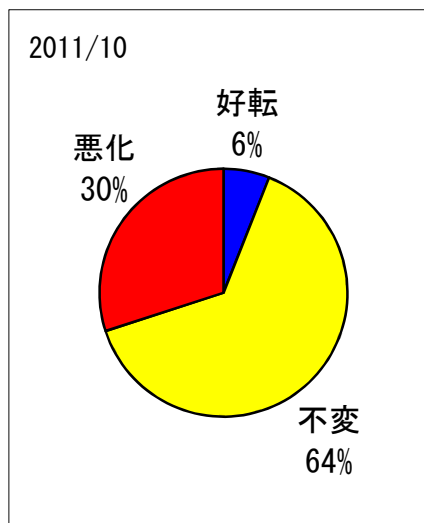
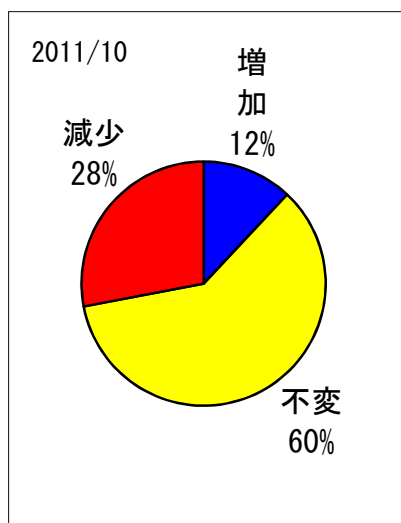
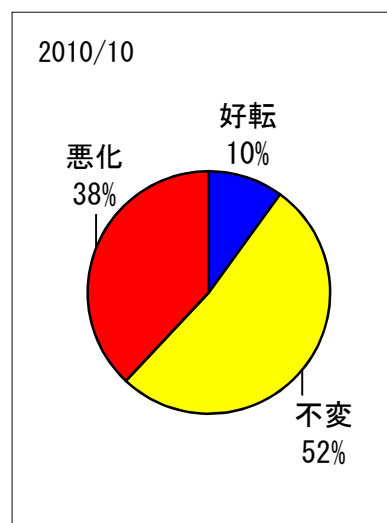
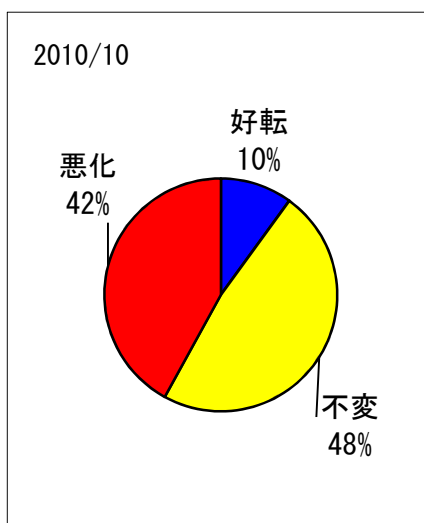
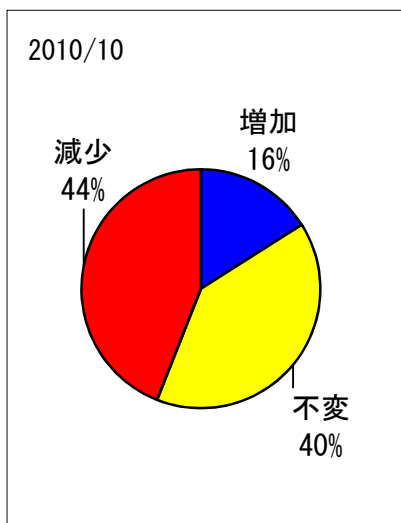


データから見た業界の動き (平成23年10月分)

売上高 (前年同月比)

収益状況 (前年同月比)

景況感 (前年同月比)



■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

区 分	製造業			非製造業			合 計		
	10/10	11/9	11/10	10/10	11/9	11/10	2010/10	2011/9	2011/10
売上高	-20	-40	-25	-33	-30	-10	-28	-34	-16
収益状況	-30	-35	-25	-33	-30	-23	-32	-32	-24
景況感	-25	-40	-30	-30	-40	-33	-28	-39	-32

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100)=D.I値

■ 概 況

本県の10月の景況は、全業種のD I値が、売上高-16（前年同月比+12）、収益状況-24（前年同月比+8）、景況感-32（前年同月比-4）となった。業種別のD I値では製造業で、売上高-25（前年同月比-5）、収益状況は-25（前年同月比+5）、景況感-30（前年同月比-5）。非製造業で、売上高-10（前年同月比+23）、収益状況-23（前年同月比+10）、景況感-33（前年同月比-3）となった。前月比では、全項目でD Iが改善している。

全体の前年同月比は、売上高と収益状況でD I値が改善。景況感でわずかに4ポイント悪化。前月比では、売上高でD I値が18ポイント改善、収益状況も、景況感も改善している。

業種別で見ると、製造業の前年同月比は収益状況のD I値のみが改善し、売上高、景況感は悪化しているが、前月比では全項目において改善が見られた。非製造業の前年同月比では、売上高と収益状況のD I値が改善し、景況感がポイントを下げている。前月比では、製造業と同様全項目でD I値が7~20ポイント改善した。

情報連絡員による県内の10月の業況報告からは、D I値の回復傾向とは逆に、産業全体では、仕事量・受注の減少、単価、価格、稼働率の低下など厳しい状況に変化はなく、加えて年末に向けて円高の影響や消費者の購買意欲の低迷が続いているなど、先行きへの不安感が増している。しかし、一部では売上の増加や、底を脱しつつあるなど明るい報告もある。

■ 業界の声

情報連絡員には、景気動向の変化、現状とその背景などについて、業界または組合員全体の動向・予測(売上高・原燃料等経費・資金繰りなど)についてコメントを求めた。

【製造業】

●食料品（水産物加工）／土産品、ギフト関係は横ばいだが、震災以降営業展開してきた西日本での婚礼用食材の新規需要があり、全体売上は前年同月比106.6%と増加した。

●食料品（洋菓子製造）／国内需要は、自社製品が増加したがOEMは減少したため横ばい。円高の中であって台湾、カナダ向けの輸出が倍増したため全体の売上は前年同月比102%と増加した。

●食料品（ワイン）／原料である葡萄の台風被害や病気等によりワインの製造量、操業度ともに低下している。

●繊維・同製品（織物）／ネクタイは、制服用のポリエステル素材は例年並みだが、シルク素材は厳しい。10月に国内と上海で展示会があった。国内は来客数が少なかった。しかし、両展示会とも良い素材のストールには値が高くても引き合いがある。産地のものづくりの方向性は間違っていないが、原材料コストが高く、資金的に厳しい。また、海外市場については、もっと前向きに検討する必要があると感じた。

●繊維・同製品（アパレル）／11月は、中国実習生の入れ替えの時期にあたり、受入準備などで忙しい。

- 窯業・土石（砂利）／生コン工場への出荷は低調。工事自体は発注されているが生コン使用までには至っていない。年末、年度末に向けて需要はあるが、大幅に伸びることはない。
- 窯業・土石（生コン）／リニア工事での需要が全体の25%を占め、組合員間の格差が大きく広がった。また、主要原材料の値上げにより収益は圧迫されているが、員外社との競合で価格に転嫁できないのが現状だ。昨年は同時期に、大型SC及び土木工事での需要が伸びてきたが、今年は主要発注機関である県・市町村の発注額が前年比で20%弱減少しており、先行きの出荷量が危惧される。
- 鉄鋼・金属／タイの洪水により製品の受注が減少、また、円高によりドルが換金できない状況である。
- その他（貴金属）／依然として景況は下向きのまま推移している。特に、首都圏においては動きがあるが地方はおきざりになっているのが現状。

【非製造業】

- 卸売（ジュエリー）／例年と比較してクリスマス、年末年始商戦の動きが悪い。様々な要因はあるが、消費者の購買意欲が増えないと好転しない
- 小売（水産物）／9月よりも10月は、景気が悪いながらも多少持ち直した感がある。しかし、当組合の組合員には長引く不況が身に染みついて活力がみられない。
- 小売（事務機文具）／仕事量の減少が目立つ。
- 小売（石油）／10月は、中東原油が小幅下落したが県内SSの石油製品の販売価格は横ばいとなった。11月は、中東原油が若干値上がりしているため県内の販売価格は2円程度の値上がりとなると思われる。平成23年2月1日より改正消防法が施行され、石油販売業者は平成25年1月31日までに地下タンク漏洩防止対策が義務づけられたため、各給油所は厳しい状況の中で改修工事費用の捻出に苦慮している。
- 商店街／賑わいづくり事業などにより少しでも好転していくよう努力していきたい。
- 宿泊業／震災以降、組合員間の格差が広がった。福島原子力発電所事故の賠償請求だが、外国人宿泊のキャンセルに限定されており計画停電や国内旅行者のキャンセルが賠償から外されたのは残念。放射能物質の飛散問題がマスコミに取り上げられ飛散とは無関係なラドン温泉まで体に悪影響と報道され、ますます客足が遠のく施設もある。国による安全宣言を出してもらいたい。
- 美容業／毎年全国で組合加入店が2,000店減少している。当組合においても毎年減少傾向にあり700店から670店になっている。昨年から加入促進委員会を立ち上げた結果、昨年は20店退会したが22店新規に加入となり始めてプラスになった。今年も12支部及び事務局が一丸となり対策会議を行った。また、保健所や県の指導センター等にも組合への加入チラシ等を置いてもらい組合員の増強に努めている。
- 建設（住宅関連）／新築、リフォームとも引き合いと受注が減少。
- 建設業（型枠）／ここ数年で型枠大工が全国で5万人減った。震災以降、主要材料であるコンパネの価格が高騰し、工事単価も著しく低い状況にある。秋口より公共工事及び民間工事とも集中して物件がでてきている。職人が足りず単価も安いいため受注を断っている仕事もある。
- 建設業（鉄構）／業界を取巻く環境は依然として厳しい状況にあるが、一部では底を脱して、今が潮目の時期にあり、単価も上昇機運にある。
- 設備工事（管設備）／公共工事の発注工事数の減少等、厳しい状況が続いている。8月までの県内の新設住宅着工戸数は、4ヶ月連続減少しているようで、依然として厳しい状況が続くそうである。材料の値上げにより工事、販売価格は上昇しているが、収益に繋がる訳ではなく売上高の減少が影響している。
- 運輸（タクシー）／昨年に比べ配車台数が1台減だが、売上は昨年並み。
- 運輸（バス）／とにかく供給過多により価格下落、稼働率低下となっている。とはいえ減車はなかなかできない。これからオフシーズンを迎えるにあたり良い材料が見当たらない状況。
- 運輸（トラック）／円高が県内荷主企業に与える影響が懸念される。TPP参加の可否に対する政府の判断が注目されているが、物流に与える影響が不透明である。